

noblesse obligeの人生 | 校長 原田 豊



卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。いよいよ最後のメッセージとなりました。感無量です。卒業に際し二つのことを皆さんにお話ししたいと思います。私の幼少期の昭和30年、40年代は今ほど豊かな社会ではありませんでしたが、昨日より今日、今日より明日の方が少しずつでも豊かで便利な社会になっていくことが実感でき、それが活力の源となってまた成長していくといった時代でした。しかし、現代はどうか、平成の時代から続くデフレはまだ完全に脱することはできず、社会には幾ばくかの閉塞感が漂っています。同時に、地球環境やエネルギー問題、加速度的に進む高齢化社会の問題、格差の増大と階層化する分断社会の問題、生成AIと人間との不透明な関係性、さらには緊張の高まる日本周辺の国際問題等々、あらゆる面で昭和の時代よりも複雑で難解な問題を抱えた時代と言わざるを得ません。ですから、皆さんはこれから先、こうした難問を自分で引き受け格闘していくのだという自覚を持ったうえで、大学で研鑽を積みそ

の難問解決に向け、具体的な行動を通して社会のために貢献してほしい、それが優秀な皆さんの「果たすべき責務」であることを、まず「はなむけの言葉」として送ります。さらにもう一つ、変化の激しい時勢に機敏に対応する賢さは確かに大切な能力ですが、同時に、変転して止まない現代社会にあって常に不動の一点を見つめて歩く、プリンシプルを持った誇り高い人生を送ってほしい。その「プリンシプル」とは何か、そう、それこそ都市大等々力で学んだ「ノブレス・オブリージュの精神」です。高潔な皆さんが果たすべき責任と義務とは何ぞや、それを常に自問自答して生きる生き方に他なりません。自分も相手も共に幸福になる道を探すアサーティブな姿勢でいたが、貪欲に知識を求めながらもメタ認知能力を発揮して自分で自分を律して生きる自律的な行動はとれたか、困難を前にたじろがず果敢に挑戦していく熱誠を失ってはいなかったか、そうです、共生・英知・高潔を高く掲げた誇り高い人生を送ってください。でも、もしそんな人生に少し疲れを感じ悩みを抱えた時、どうぞ母校の門をくぐり、私たち都市大等々力の教職員を尋ねに来てください。

高校を卒業していく生徒たちへ | 保護者の会 会長 天野 毅



卒業おめでとうございます。卒業後、新たな進路を選択する君たちには無限の可能性のある事を、まずは分かってもらいたい。そして自分の将来に向けて精一杯頑張る、社会的な責任を担い、活躍していく事を願います。日本は戦後、焼け野原になりましたが、当時の若者は“新しい日本を作るのだ!”と何も無い所からもう一度、この国の発展を願い頑張ってきました。その結果、78年経った現在、世界の多くの人々が憧れ、誇れるような、素晴らしい国になりました。ただし、その過程には挫けそうになる事、理不尽な多くの困難があった事は間違いありません。これから君たちも自分の夢に向か

っていく中で、思い通りにならない事ややるせない事など、どうして?と思うような事が起きるかもしれません。でも、その時は少し立ち止まって、それはやりたい事を成就する為に神様が与えてくれている貴重な試練だと思い、歯を食いしばり、乗り越えて行ってもらいたいと思います。決して諦めないでください。もう一つお願いします。自分の目標や夢だけでなく、人として何が大事かを常に考えて正しい行動をしてください。当たり前の事を当たり前の様に行う、自分が嫌だと感じる事は決して他人にはしない。もう1人の自分が自分自身を客観的に見ていく事も大事です。さあ、卒業です。君たちにはできる!新たな世界へ羽ばたいて行け!!

Keep shining



高校3年 お世話になった先生方



樋口先生 小林先生 塚本先生 江口先生 石森先生 伊藤先生



兒玉先生 植木先生 清水先生 池田先生 村山先生 橋本先生

編集後記

ご卒業おめでとうございます。卒業号を発行するにあたり、原稿をお寄せくださいました先生方に厚く御礼申し上げます。マスク着用期間が長かった高校生活でしたが、体育祭や藍桐祭などで見せてくれた溢れる笑顔には、様々な制約をものともしない力強さを感じさせられるものがありました。今号は等々力で過ごしたその青春の記録を卒業号としてご用意しましたので、ご一読いただけると幸いです。最後に、保護者の皆さまには長きにわたり保護者の会の活動にご協力いただけましたことを心より御礼申し上げます。

2024年3月卒業号

CONTENTS
P2-3 卒業ページ P4 校長・会長挨拶・編集後記
東京都市大学等々力中学校・高等学校 保護者の会